

ウィルムスがん財団
米国501(c)(3)認定非課税団体（EIN: 98-3478827）
712 H Street NE, Suite 2147, Washington DC, USA, 20002
info@WilmsFoundation.org | +1 (778) 514 5000

© 世界保健機関（WHO）。ウィルムスがん財団（WCF）との協力のもと、許可を得て使用しています。CureAllはWHOの「小児がんに関する世界的イニシアチブ（GICC）」の一環です。WHOは特定の団体、製品、サービスを推奨するものではありません。

www.WilmsFoundation.org



ウィルムスがん財団

小児腎がんの克服を目指して

私たちについて

ウィルムスがん財団（WCF）は、9歳のウィリアム・ホジキンソンをきっかけに設立された慈善団体です。小児腎がん「ウィルムス腫瘍」の影響を受ける子どもや家族、医療機関を支援し、そのニーズを代弁します。



私たちの目標

啓発、教育、権利擁護、早期発見、治療に関する国際的なプログラムを確立します。また、子どもや家族、医療従事者を支援し、日々この病気と向き合う中で生じる精神的・経済的な負担の軽減を目指します。



ウィルムス腫瘍とは

腎芽腫（一般にウィルムス腫瘍と呼ばれます）は、小児の腎臓に発生するがんの中で最も多く、小児がん全体では4番目に多いがんです。尿路の異常やその他の先天性の異常を伴うことがあります。主に幼児（通常5歳まで）が発症しますが、年長の子どもや10代の若者、ときには成人にもみられます。

腫瘍は最初に腎臓で増殖し、やがて腎臓自体よりも大きくなります。通常、腫瘍と腎臓の両方を摘出する必要があります。進行すると肺、肝臓、骨などへ転移し、命に関わることもあります。早期発見できれば生存率は高いものの、何年も診断されず、厳しい経過をたどる子どもも少なくありません。化学療法、放射線療法、手術など、生命に危険を伴う大がかりな治療が必要になることがあります。

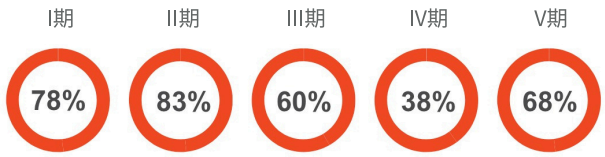
すべての親にとっての悪夢

登校途中に「おなかが痛い」と訴えただけだったウィリアムは、わずか7歳でステージ4／5のウィルムス腫瘍と診断されました。活発だった少年の検査で、腎臓に巨大な腫瘍、肺にさらに9個の腫瘍が見つかりました。1年間の治療で複数回の手術を受け、長期にわたる化学療法と放射線療法を経験しました。ようやく困難を乗り越えたものの、新たな腫瘍による再発を繰り返し、リスクの高い幹細胞移植に至りました。

早期に診断されていれば、この痛み、ストレス、心の苦しみを防げたはずです。医療体制への不必要な負担も避けられたはずです。

ウィルムス腫瘍：病期別の5年生存率

割合（びまん性退形成型）



支援

ウィリアムのような子どもが、幼くして命を脅かす状況に直面するべきではありません。そして、それを避けられる可能性があります。ウィルムス腫瘍は、早期に発見すれば最も治療しやすい小児がんの一つですが、診断が遅れると治療が非常に複雑になります。





支援への参加

WCFのさまざまなプログラムを通じて、こうした状況にある子どもや家族、医療従事者の精神的・経済的負担を軽減できます。しかし、私たちだけでは実現できません。サービスを届けるために、個人や団体の皆さまのご支援を必要としています。

